

2019年8月16日
 千代田化工建設株式会社
 IR・広報・CSR部

2020年3月期・第1四半期決算説明会：質疑応答サマリー

2019年8月1日に開催した、2020年3月期・第1四半期決算説明会において、出席者の皆様からいただいた主なご質問と、当社の回答を以下にまとめております。

質問	回答
キャメロンLNGのインセンティブ、ヤマルLNGの予備費の戻りは、通期業績予想に織り込まれていたか。	キャメロンLNGのインセンティブ、ヤマルLNGの予備費の戻りは、共に通期業績予想には織り込まれていなかった。これら一過性要因を除けば、第1四半期業績は概ね想定通り進捗している。
タンゲーLNGの契約条件変更は、第1四半期決算に反映されたのか。	第1四半期決算には反映していない。どういう影響があるかを見極めて、今後適切に会計に反映する。
第1四半期の完成工事総利益率・15%に対し通期予想は7.4%となっているが、第2四半期以降に厳しい要因を見ているのか。	第1四半期の完成工事総利益率はキャメロンLNGのインセンティブ、ヤマルLNGの予備費の戻りで上振れしているが、再生計画をスタートさせたばかりなので通期予想を見直すのは時期尚早と考えて、据え置いている。第2四半期以降に厳しい要因を見ているわけではないが、プロジェクトの損益は進捗を見ながらしっかりと管理していく。中・長期的な目線で見たい。
第1四半期の受注実績は通期予想の6%程度だが、これは想定通りか。	今期の受注予想においては、第4四半期に大型受注を考慮しており、第1四半期の実績は想定通りである。
新規受注の考え方につき、今後はRepeat Order(経験のある顧客、地域等)を中心に狙っていくのか。	Repeat Orderのみを狙っていくわけではない。経験のある顧客、馴染みのある地域等を優先的に考える。
今後の受注戦略はこれまでと変わるのか。	受注を目指す案件は当面LNGが中心となるが、オーバーストレッチして取りに行くことはせず、身の丈に合ったリスクとリターンバランスと、リソース配分を考えた受注戦略をとっていく。中東などの案件では地政学リスクも存在し、引き続きアンテナを高くして情報収集に努める。
今回の為替対応は、これまでと変わったという理解でよいか。	ご理解通り、単体の外貨建て資産と海外子会社の外貨建て負債がほぼ同額で見合っているため、第1四半期時点では包括為替予約を行っていない。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しにのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。